

平成25年度だけでも...

赤字17億円 厳しい

国保財政



厳しい財政 所沢市国民健康保険の現状⑦

皆さんが安心して医療を受けられる仕組みである医療保険制度。その中で『最後の砦』と呼ばれている国民健康保険（以下「国保」）の運営は、年々厳しさを増しています。これまで、6回にわたり所沢市の国民健康保険の現状についてさまざまな角度からお伝えしてきました。最終回の今号は、実際の所沢市国民健康保険特別会計の決算状況から、国保財政の厳しい状況をご理解いただき、国保制度がなくてはならない制度であること、そして、今後も国保を維持していくために、皆さんへのお願いと市の取り組みなどについて紹介します。

国保年金課 ☎2998-9131 ☎2998-9061

「高額療養費」をご存知ですか？

通常、被保険者は、医療費の3割を医療機関へ支払います。しかし、大きなけがや重い病気になり、高額な医療費が掛かったときは自己負担限度額を超えた分が国保から「高額療養費」として支給されます。

| 病名 | 医療費総額 (10割) | 自己負担 (3割) | 高額療養費 | 実質自己負担額 |
|----------|-------------|-----------|-----------|-----------|
| 【脳梗塞】 | 327万円 | 98万1,000円 | 87万 870円 | 11万 130円 |
| 【心筋梗塞】 | 240万円 | 72万円 | 61万8,570円 | 10万1,430円 |
| 【左足複雑骨折】 | 89万円 | 26万7,000円 | 18万 670円 | 8万6,330円 |

◎医療費は、70歳未満の一般世帯の一例です。また、平成27年1月に制度改正を予定しています。

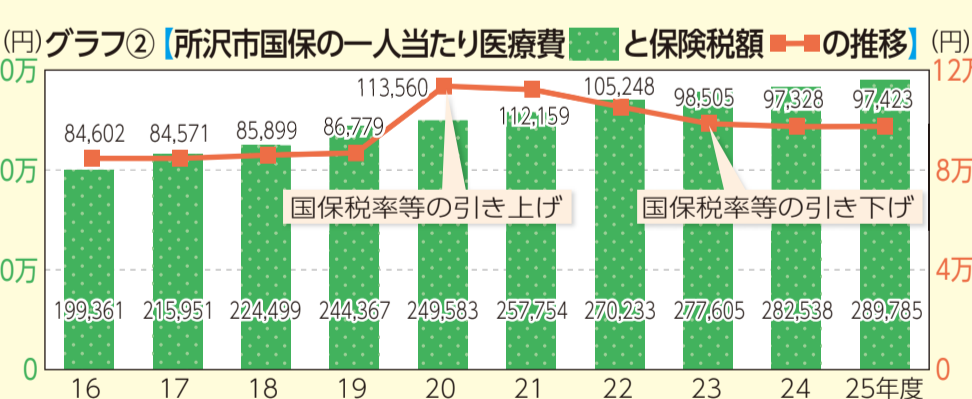
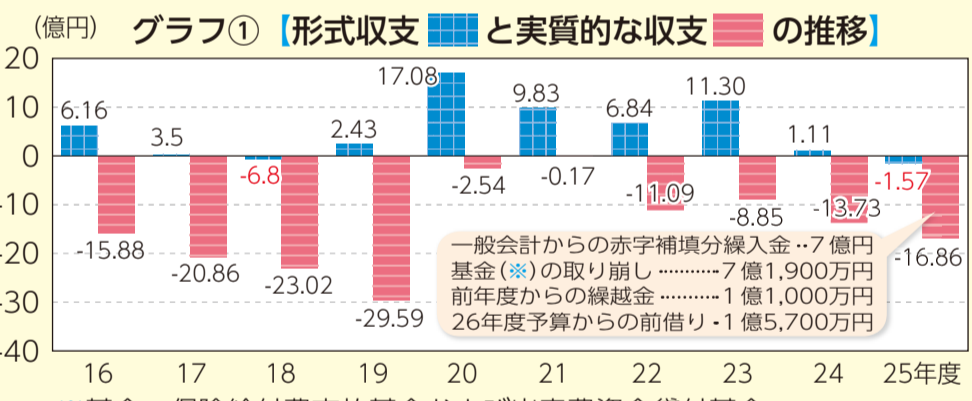
これから安心して医療サービスを受けていただくためご協力ください

- ① かかりつけ医・かかりつけ薬局を持ちましょう
かかりつけ医やかかりつけ薬局があると、病歴などを把握した上で、細やかな対応をしてもらえて安心です。
- ② ジェネリック医薬品を利用しましょう
ジェネリック医薬品（後発医薬品）は、最初に作られた薬（先発医薬品・新薬）の特許期間終了後、有効成分・用法・効果・効能を同じに製造された医薬品です。新薬に比べ安価であり、皆さんの薬代や医療費の節約になります。
- ③ 医療機関の受診の時間で医療費が変わります
時間外や休日受診をすると診療料金に追加することがあります。できるだけ診察時間内に受診しましょう。
- ④ 医療機関の掛け持ちはやめましょう
同一の病気で複数の医療機関にかかる、不必要な検査、投薬により、治療が長引いたり、医療費が増えたりすることがあります。また、薬のもらいすぎにもつながります。
- ⑤ 薬は必要な分だけもらいましょう
薬のもらいすぎは、医療費の無駄につながる上、過剰な服用による身体への影響も懸念されます。お薬手帳を活用するなど、薬のもらいすぎに注意しましょう。
- ⑥ 特定健診を受診しましょう
生活習慣病などの予防や早期発見のために、毎年必ず特定健診を受診しましょう（下記参照）。

窮迫する国保財政 25年度の実質的な収支約17億円の赤字

所沢市国民健康保険特別会計における財政状況

本来は、国保もその他の医療保険と同様に、加入者が納める保険料（国民健康保険税）でやりくりするものでした。しかし、医療費



23年度の国保税引き下げ後、医療費の増加（グラフ②参照）や景気の低迷による税収の減少などから国保財政状況が悪化し、貯えておいた基金を取り崩すことなどで何とか財政運営をしてきましたが、25年度にはついに形式収支が約1億6,000万円の赤字となり、実質的な収支においては約17億円の赤字となりました。また、今年度末には、基金保有額も0円となります。

形式収支…各年度の歳入総額から歳出総額を差し引いた収支
実質的な収支…形式収支から基金の取り崩し、前年度からの繰越金、一般会計からの赤字補填分繰入金を差し引いた収支

高い傾向にある高齢者の割合が多いなどの理由から、国民健康保険（以下「国保」）と国や県の補助金・市負担金だけでは足りず、教育や福祉、環境などに使わなければならない皆さんの税金（一般会計）から何億円も補填して運営している状況です。26年度は、当初予算で9億4,000万円のお金を補填しました。国保加入者以外を含む市民全体のためのお金ですので、足りなければ補填すればよいというものではありません。

早急な国保財政の立て直しが必要です

市民の皆さんの健康を守る「最後の砦」である国保は現在、高齢化の進展、医療技術の高度化、生活習慣病の増加などによる医療費の増加と国保税の減収などによる深刻な歳入不足に直面しています。これまで国保赤字分を補填していた一般会計も社会保障経費の増大で決して余裕がある状況ではありません。ジェネリック医薬品の利用率向上や疾病予防のさらなる促進などによる歳出の抑制、収納率の向上や国保税の見直しなどによる歳入の確保の両面から、早急な国保財政の立て直しが必要です。

お詫ごと訂正

9月に郵送した所沢市国民健康保険証と同時封したチラシ「所沢市国保財政がピンチです！」内のグラフ「所沢市国保の一人当たり医療費と保険税額」の一人当たり医療費の平成16年と19年度の金額が間違っていました。正しくは16年度199,361円、17年度215,951円、18年度224,499円、19年度244,367円、20年度249,583円、21年度257,754円、22年度270,283円、23年度277,605円、24年度282,538円、25年度289,785円です。お詫びして訂正いたします。

◎上のグラフ②が正しいものです。詳細は市HPをご覧ください。

医療費の抑制 市ではこんな取り組みをしています



特定健診は生活習慣病に着目した健康診査です。脳卒中や心筋梗塞などの引き金になる高血圧や糖尿病などの生活習慣病は、自覚症状がありません。その生活習慣病のチェックが特定健診です。

特定健診は、予防や病気の早期治療につながり、健康を維持できます。治療に掛かる「費用」も減り、「期間」も短くて済みます。好きなことをずっと続けるため、また大切な家族を守るため、特定健診を必ず受診しましょう。

また、国保では30歳代の方も特定健診と同様の健診を受診できます。申込制ですのでお問い合わせください。

糖尿病性腎症重症化予防事業

特定健診は毎年受診しているけれど、結果を見ないで放置している方がいませんか？

国保では、平成26年度から糖尿病性腎症に着目した「重症化予防事業」を行っています。健診結果やレポート（診療報酬明細書）を受診した医療機関から健康保険へ送付される医療情報が記載された請求書から医療機関への受診を勧め

ジェネリック医薬品利用率目標

平成25年度からジェネリック医薬品利用率促進に向けて国保加入者の皆さんへ、新薬をジェネリック医薬品に変更した場合の差額をお知らせする「差額通知」やジェネリック医薬品希望シール配布などによる周知、医療関係者への利用促進の働き掛けを行ってきました。その結果、利用率が向上し、約6,000万円の医療費の節約に



めたり、かかりつけ医の指示の下、生活指導をしたりするものです。糖尿病の合併症である糖尿病性腎症が悪化して人工透析に移行する方は県内で毎年1,000人以上り、人工透析に至る最も多い原因となっています。この事業は、糖尿病の重症化リスクが高い方を対象に、医師や保健師・看護師が連携して糖尿病の治療と生活習慣改善を支援します。

人工透析に掛かる医療費は一人当たり年間約500万円といわれています。人工透析への移行を回避することができれば、対象者は生活の質を維持でき、高額な医療費の抑制にもつながります。

医療機関などのレポート（診療報酬明細書）の内容を過去の医療情報や同月の別の医療情報などの情報と照らし合わせながら、内容に間違いがないか、国保資格者が、かどつかを点検することで、平成25年度は、年間約1億5,000万円の医療費削減につなげました。

ジェネリック医薬品を利用しましょう

ジェネリック医薬品は、先発医薬品と同じ有効成分・用法・効果・効能を同じに製造された医薬品です。新薬に比べ安価であり、皆さんの薬代や医療費の節約になります。

ジェネリック医薬品希望シールを市役所1階国保年金課、まちづくりセンターで配布していますので、活用ください。

所沢市国民健康保険



ジェネリック医薬品の利用率目標

目標70% (30年3月診療分)

ジェネリック医薬品の薬剤処方件数
利用率 = $\frac{\text{ジェネリック医薬品の薬剤処方件数}}{\text{ジェネリック医薬品のある先発医薬品の薬剤処方件数}}$

◎現在の利用率は50.47%（26年3月診療分）です。